

明倫館で男を磨こう!! 受験生の志望傾向と寮生活のメリット

主事 戸梶 學

戦後の混乱の中にある昭和二十八年、四国の西南地域から上京して勉学にいそしむ学生のために、目黒区上目黒に木造二階建ての南豫明倫館(以下、明倫館)が開設されました。当時としては素晴らしい建物で、住むところは確保できたものの、当初は満足に食べ物がなく、それでも郷土や在京の南豫の人たちに支えられながら大学に通い、今日の伝統を築いてきました。昭和六十一年には武蔵野の一角、小金井市町に新しい寮が完成しました。鉄筋三階建て。閑静な住宅街にあり環境抜群で、さほど広くない市内には広大な都立公園が三つもあります。明倫館には七月三十一日現在、四十七人の寮生が生活しています。もっとも寮生が増え、活気づく寮であってほしいと思います。

寮生の減少には、外的要因が考えられます。愛媛から上京する男子学生が、極端に減っているのです。二十六年四月、中予以南の高校のうち東京の大学に五人以上進学したのは五校程度でした。私も四十数年前、上目黒の明倫館から大学に通いましたが、出身高校からは数十人の同級生が上京しました。東京に進学する学生の減少は少子化による全国的な傾向のようですが、この傾向は二十七年以降も続くと思われる。

「地元」「安全」「理系」「資格」——ここ数年、受験生が大学を志願するに際して、この四点を考慮する傾向が強いられています。

「地元」「安全」とは、地方から大都市圏の大学に志願せず、地元(の)大学を受験し、実力以上のレベルの高い大学にはあえてチャレンジせず確実性を求めることのようにです。保護者の希望も

「地元」「安全」「理系」「資格」



▲今年4月27日、新入寮生歓迎会の模様

あるようです。これでは東京に学生が集まらないうです。学生減少とは無関係ですが、ちなみに「理系」「資格」の条件は、就職に有利であり、保健・福祉などの専門大学への志願ということだとも思います。以上のような逆風の中で、明倫館は寮生を集めなければなりません。

一人暮らしは甘くない

大学生になって親元から離れ「やっと一人暮らしができる。自由になれる」とほとんどの学生は思うでしょう。しかし、マンションやアパートでの一人暮らしは、思うほど甘くはないでしょう。高校、大学と寮生活を経験したOBが、「大学院では一人でのんびりできると期待していましたが、食事摂取などが厳しく大変で寮に舞い戻りました」と言っていました。

お分かりのように寮生活の一つ目のメリットは、食事です。栄養バランスの取れた食事が、朝夕二食(日曜、祝日を除く)提供されます。

二つ目は寮費が安いこと。現在、寮費は、食費部屋代(全個室・六・八畳)合わせて五万五千元です。三つ目は生活環境が良いこと。洗濯機などもあり、エアコンは各部屋に完備しています。インターネットは使い放題。経済的に負担が小さいのが大きなメリットです。

共同生活は、先輩、後輩との付き合いが一生続きます。これが四つ目のメリットです。卒業して会う機会があったとき、長年の友のように話が弾みます。同じ釜の飯を食べた友は懐かしいものです。

五つ目は、寮の廊下や食堂で無意識に挨拶ができるようになるなど、礼儀や協調性、会話力が身に付きます。

「志」打てば響くを胸に刻む

寮生と明倫館入寮を目指す人に、二つの言葉を贈ります。一つは最近よく言われますが、「志」です。心がある方向を目指す意味の「心指す」。漢字の「志」の土印は、進んでいく足の形が変形したもので、心が目標を目指して進むことです。目的に向かってしっかりと進んでいただきたいと思います。言い換えれば誇り、矜持です。人が

「奨学金支援会」だより

今後とも

ご支援をお願いします

公益財団法人南豫奨学会 理事長

奨学金支援会 会長 伊達 宗信

平素は公益財団法人南豫奨学会と南豫明倫館の運営にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、南豫奨学会の平成二十五年度の「奨学金支援会」には、最終的に、九十九人、個人、法人、市町村から二百四十六万円の支援金が寄せられました。皆様方のご厚意に感謝申し上げます。すべて寮生の奨学金として貸与させていただきます。本年度は三人に年間総額百八十万円を貸与しています。

平成26年度主要行事予定

平成26年

- 4月 1日(火) 新入寮生が入寮
- 12日(土) 花見・バーベキュー
新入寮生に寮則説明
- 27日(日) 第1回常務理事会
新入寮生歓迎会
- 5月17日(土) 第2回常務理事会
- 6月 7日(土) 第1回定例理事会(南豫明倫館)
- 21日(土) 定例評議員会(南豫明倫館)
- 8月 4日(月) 夏季休暇開始
- 16日(土) 夏季休暇終了
- 9月 6日(土) 第3回常務理事会
- 10月11日(土) 寮生保護者懇談会(宇和島)
入寮説明会(宇和島)
- 11月 8日(土) 第4回常務理事会
- 23日(日) 第5回常務理事会
寮祭(勤労感謝の日)
- 12月 2日(火) 南予高校での入寮説明会
- ~ 5日(金)
- 13日(土) 第6回常務理事会(忘年会)
- 25日(木) 冬季休暇開始

平成27年

- 1月 7日(水) 冬季休暇終了
- 17日(土) 第2回定例理事会(南豫明倫館)
- 2月15日(日) 第7回常務理事会・卒業生壮行会
- 3月14日(土) 第8回常務理事会
第1次新入寮生書類選考(東京)
- 21日(土) 第1次新入寮生面接選考(宇和島)
出席理事・評議員懇親会(宇和島)
- 3月下旬 平成27年度生入寮開始
- 3月下旬 第2次新入寮生選考
(随時、南豫明倫館)

※予定はお断りなく変更されることがあります。



編集後記

郵便振込口座番号 〇一五〇二二一九六五三
名義 「南豫奨学会奨学金支援会」

▼「明倫館だより」の発行が遅くなり、申し訳ありません。盛夏を迎えてしまいました。新入寮生は朝早く起きて大学に通っているようです。朝食を取る姿を見て、それはわかります。

▼寮生は新しい生活に慣れた様子ですが、同級生という横のつながりが強いと感じます。しかし、共同生活なので先輩と後輩の縦の交流をもっと深めてほしいと思います。

▼先輩も後輩の面倒をしっかり見なければなりません。その順送りが明倫館の伝統を未来につなげます。近年、愛媛から東京で学ぶ学生が減っています。寮生やOB、保護者の皆様も、明倫館への入寮を呼びかけてください。

(戸梶)

見ていないから、これくらいは許されると思ったらもうだめです。

もう一つは「打てば響く」。鐘は大きくても小さくても、もちろん音色は違いますが、必ず鳴り響きます。しかし話しかけても反応がなく、打つても響かない人が増えていきます。

ぜひとも明倫館に入っていたいただき、共同生活を体験して、男を磨きましょう。

南豫奨学会の奨学金貸与は、本年度までに三十二人、総額五千六百八十万円の実績を挙げました。しかし、奨学金貸与の基金としては

いまだ僅少で、皆様方のお力添えが一層必要です。つきましては、奨学金貸与金の基金となる年会費として、一口(普通会員)二万円、特別会員

南豫奨学会評議員・理事二・三万円、法人会員五万円)以上のご支援を賜れば幸甚に存じます。国の内外で活躍する人材の育成こそ郷土発展の基礎だと確信しています。よろしくお願ひ申し上げます。